

ない助産所も多い。特に、妊娠中に合併症をもつ妊婦への助産師の対応は、助産師によって対応に差があるが、危険性の予測や高い判断力によって対応しているとは言い難い面がある。課題として、求められるケアの水準を維持していくために、また、安全、快適なケアを保証するためにも卒後教育の充実とマニュアル作成の意義は大きい。

マニュアルに関する既存の文献を収集した。僅か 3 編の文献であった。それらは、専門家による経験と意見で作成されていた。妊産婦管理を分かち持つ医師と助産師が、一定の産科指針に基づいて、それぞれの役割を明確にすることが、安全と満足を保証する一歩となると考える。平成 14 年度、マニュアルの作成は、以下の基準を満たすものとして作成する計画である。

(1)十分に確立した根拠を基盤にする。(2)先駆的活動を行っているニュージーランド、米国、英国、オランダのマニュアルは、我が国の助産師の役割や責務に適合させることを意図して検討する。(3) 助産師や産婦人科医師が重要であると考えている内容を含むこと。(4) マニュアルを作成してきた助産師と協議すること。(5) マニュアルが根拠に基づいたものであり、利用可能なものであること。(6) 臨床的に重要な妊娠、出産、産褥の領域と根拠の強さのランク付けをするシステムについても検討する。(7) マニュアルの作成後は、産婦人科医師、小児科医師、助産婦によるマニュアルに対する意見と評価を受ける。

以上、これらのマニュアル作成への糸口として、重要な示唆が与えられた。

E 結論

マニュアル検討メンバーにより、実践可能なマニュアルの作成に当たったの課題を検討した。安全で快適な妊娠、出産環境の確保は、先ずは、医師と助産師による産科指針についての共同研究をすることで一定のケアを維持することが可能となる。

さて、今年度は助産活動マニュアルの枠組みと主な内容について検討を行ったが、今後、他の班の調査結果—対象者のニーズ、助産婦活動の実態とニーズ、搬送の実態とガイドライン等を基に、マニュアルの枠組みに包含すべき詳細な内容の検討および助産婦の専門職としての倫理を包含した実践マニュアルを作成する予定である。

F 健康危険情報

G 研究発表

1. 論文発表

竹内美恵子，前田和寿，青野敏博，
助産所における安全で快適な環境，
医学の世界社，54（4）。

2. 学会発表

なし

3. その他

なし

別紙 5

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
竹内美恵子 前田 和寿 青野敏博							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
竹内美恵子 前田 和寿 青野敏博	助酸所における安全かつ快 適な環境	医学の世界社	54 (4)		2002